

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成29年4月27日(2017.4.27)

【公開番号】特開2015-219050(P2015-219050A)

【公開日】平成27年12月7日(2015.12.7)

【年通号数】公開・登録公報2015-076

【出願番号】特願2014-101213(P2014-101213)

【国際特許分類】

G 0 1 N 35/00 (2006.01)

G 0 1 N 35/10 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 35/00 E

G 0 1 N 35/06 D

【手続補正書】

【提出日】平成29年3月16日(2017.3.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

検体容器中の検体試料を分析する第一の分析モジュールと、
前記第一の分析モジュールよりも少量の検体試料を用いて同一の分析項目の分析が可能な第二の分析モジュールと、
前記検体容器中の前記検体試料の量を判断する判断部と、
前記判断部の判断結果に基づき、前記検体容器を分析する前記分析モジュールを選択制御する制御部と、
前記検体容器を複数の前記分析モジュールの何れかに搬送する搬送部と、
を備える、
ことを特徴とする自動分析装置。

【請求項 2】

請求項 1 記載の自動分析装置であって、
前記判断部は、前記検体容器の大小により前記検体試料の量を判断する、
ことを特徴とする自動分析装置。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の自動分析装置であって、
前記第二の分析モジュールは、分注量優先でスケジューリングを行う分析モジュールであり、
前記第一の分析モジュールは、スループット優先でスケジューリングを行う分析モジュールである、
ことを特徴とする自動分析装置。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の自動分析装置であって、
前記制御部は、前記判断部が前記検体試料の量を少と判断した場合、
前記搬送部が、前記第二の分析モジュールに前記検体容器を搬送し、前記検体試料の分析を開始させるよう制御する、
ことを特徴とする自動分析装置。

【請求項 5】

請求項 1 に記載の自動分析装置であって、
前記制御部は、前記判断部が前記検体試料の量を大または不明と判断した場合、
前記搬送部が、前記第一の分析モジュールに前記検体容器を搬送し、前記検体試料の分析を開始させるよう制御する、
ことを特徴とする自動分析装置。

【請求項 6】

請求項 1 に記載の自動分析装置であって、
前記分析モジュールは、前記検体容器中の前記検体試料を分析するため、前記検体容器から分注する前記検体試料の検体量が異なる複数の同一分析項目の分析パラメータ、を備える、
ことを特徴とする自動分析装置。

【請求項 7】

請求項 6 に記載の自動分析装置であって、
前記制御部は、前記判断部の判断結果に基づき、前記分析モジュールの前記複数の同一分析項目の分析パラメータを切り換え制御する、
ことを特徴とする自動分析装置。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の自動分析装置であって、
前記制御部は、前記判断部が前記検体試料の量を少と判断した場合、
前記分析モジュールが、前記検体容器から分注する前記検体試料の検体量が少ない分析パラメータで分析するよう制御する、
ことを特徴とする自動分析装置。

【請求項 9】

請求項 7 に記載の自動分析装置であって、
前記制御部は、前記判断部が前記検体試料の量を大または不明と判断した場合、
前記分析モジュールが前記検体容器から分注する前記検体試料の検体量が通常の分析パラメータで分析するよう制御する、
ことを特徴とする自動分析装置。

【請求項 10】

検体容器中の検体試料を分析するため、前記検体容器から分注する前記検体試料の検体量が異なる複数の分析パラメータを備える、複数の分析モジュールと、
前記検体容器中の前記検体試料の量を判断する判断部と、
前記判断部の判断結果に基づき、前記検体容器を分析する前記分析モジュールと前記分析パラメータを選択制御する制御部と、
前記検体容器を選択された前記分析モジュールに搬送する搬送部と、を備える、
ことを特徴とする自動分析装置。